

# 言語文化 学習指導案

日 時 令和5年 11月1日（水）第4校時  
対 象 第1学年

## 1 単元名

芥川 龍之介「羅生門」

【使用教科書：新編 言語文化（数研出版）】

【使用副教材：トータルサポート新国語便覧（大修館書店）】

## 2 単元の目標

- ・作品中の時代背景を理解するとともに、小説特有の表現に着目する。
- ・「下人」のいる場所や状況が移り変わるにつれて揺れ動く心情を読み取る。
- ・小説の主題である人間のエゴイズムと、題名に象徴される「生」について自分の考えを持つ。

## 3 単元（題材）の評価規準

ア 知識・理解	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に向かう態度
・難解な語彙を理解し、作品中の時代背景や舞台設定を読み取ることができる。 ・常用漢字の意味、用法を理解し、語彙を豊かにしている。	・小説特有の表現に着目することができる。 ・「下人」のいる場所や状況が移り変わるにつれて揺れ動く心情を読み取ることができる。	・わからない言葉や表現を辞書等で調べている。 ・主題である人間のエゴイズムと、題名に象徴される「生」について自分なりの考えを表現している。

## 4 指導観

### （1）単元（題材）観

本単元は、学習指導要領「C 読むこと」の「文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。」を踏まえて設定した。

本単元は、高校入学以来、2つ目に扱う小説である。ある心理に至るきっかけがどこにあり、その心理の変化がいかなる行動の変化を生み出すのかを、丁寧に読み取らせたい。緻密な情景描写や巧みな比喻表現に着目し、視覚的なイメージを喚起させることで生徒を作品世界へ引き込んでいく。

### （2）生徒観

1年 H1 組は、指名されずとも積極的に発言をする生徒が多く、学習に向かう姿勢は非常に良好である。自分からはなかなか発言できない生徒も、指名されれば考えを述べるができる。現段階での課題は、自分の回答に自信を持っていないことや、短時間で思考を言語化できないことにあると考えられる。授業の中で、生徒の発言を認め価値付けるような言葉をかけていくことで、生徒の主体的な発言をより引き出すことができるように努める。また、各単元終了後の振り返りシートでは、答えのない問いに時間をかけてじっくりと向き合い、アウトプットしようとする姿勢が見られる。生徒の意欲を真摯に受け止め、効果的なフィードバックに努めていく。

### （3）教材観

主に教科書とノート、国語便覧、ワークシートを用いて学習を行う。本校には読み書きに苦手意識を持つ生徒が多く在籍しているが、一人1台端末の活用により、何らかの困難を有する生徒も学習の幅が広がったと考えられる。その一方で、授業内外で文字を書く機会は減少しており、書字への苦手意識、心理的負担は増幅していると推察される。本単元ではワークシートの空欄を補充したり、補足説明を加えたりしながら学習を進めるが、今後学年が進行するにしたがってまとまった量の文章を負担に感じることなく書くことができるように徐々に能力を向上させていきたい。本単元の最後には生徒が自身の学習到達状況を確認するためのワークシート（自己評価シート）を Teams で配信し、記入させることで振り返りに役立てる。

## 5 年間指導計画における位置付け

学期	月	単元	具体的指導目標	指導内容	予定 時数
2 学期	9	古文	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文語のきまりを理解している。</li> <li>・古典の世界に親しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兼好法師「徒然草 冒頭」</li> </ul>	6
	10	古文 小説	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文語のきまりを理解し、古典の世界に親しむ。</li> <li>・現代にも通用する兼好法師の名言と自分の生活を引き付けて考える。</li> <li>・小説特有の表現に親しみ、登場人物の心情の変化を読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兼好法師「徒然草 高名の木登り」</li> <li>・芥川龍之介「羅生門」</li> </ul>	7
	11	小説 短歌	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小説特有の表現に親しみ、登場人物の心情の変化を読み取る。</li> <li>・愛唱性に富む短歌に親しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芥川龍之介「羅生門」</li> <li>・詩歌を味わう</li> </ul>	6
	12	短歌	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に情景や心情描写を取り入れながら短歌の創作に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詩歌を味わう</li> </ul>	3

## 6 単元（題材）の指導計画と評価計画（7時間扱い）

	学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準（評価方法）
第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の目標を確認する。</li> <li>・芥川龍之介の生い立ちや代表作について理解する。</li> <li>・教員の範読を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の範読を聞き、難解な語句にはルビを振らせる。</li> <li>・わからない語句は端末で調べ、プリントにまとめさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウ（ワークシートの記述内容・行動の観察）</li> </ul>
第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一場面において、主人公である下人の置かれている状況と舞台設定を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「暮れ方」「一人の下人」「雨やみ」「からす」等の表現に着目させ、作品世界のイメージをふくらませる。</li> <li>・下人の特徴を示す表現を様々な方向から考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ア（ワークシートの記述内容・行動の観察）</li> <li>・ウ（ワークシートの記述内容・行動の観察）</li> </ul>
第3時 （本時）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下人が途方に暮れている理由を理解する。</li> <li>・「この衰微の余波」という表現に着目して舞台設定をよりの確に読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「暇を出される」という表現についての説明を行い、下人が途方に暮れている理由を明らかにする。</li> <li>・手段を「選ぶ」と「選ばない」ことがそれぞれ何を表しているのか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ア（ワークシートの記述内容・行動の観察）</li> <li>・イ（ワークシートの記述内容・行動の観察）</li> </ul>
第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二場面で、下人が最初に老婆を見た時の心情を理解する。</li> <li>・下人の心理の変化を時間と空間の変化に沿って把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下人がどのようなきっかけから、心情の変化に至り、どのような行動に移したのかを順に理解させる。</li> <li>・「六分の恐怖と四分の好奇心」について考えさせる。</li> <li>・『今昔物語集』にもある「頭身の毛も太る」という表現について説明し、視覚的なイメージを喚起する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ア（ワークシートの記述内容・行動の観察）</li> <li>・イ（ワークシートの記述内容・行動の観察）</li> </ul>
第5時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三場面での、下人の心理の変化が何に起因しているのかを理解する。</li> <li>・老婆を表す直喩表現に着目し、その効果を考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老婆を表す直喩表現のうち、動物を用いているものに着目し、それらの動物に共通するイメージを持たせる。本文冒頭に出てきた「からす」を振り返らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イ（ワークシートの記述内容）</li> <li>・ウ（ワークシートの記述内容・行動の観察）</li> </ul>
第6時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三場面において、老婆が語る自己肯定の論理と老婆の着物を剥ぎ取る下人の論理について読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老婆がどのような考え方のもとで死骸の髪の毛を抜いているかまとめさせる。</li> <li>・老婆の話から変化した下人の内面に着目させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ア（ワークシートの記述内容・行動の観察）</li> <li>・イ（ワークシートの記述内容・行動の観察）</li> </ul>

第7時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「下人の行方は…」という最後の一文について考える。</li> <li>・下人が置かれている空間と心理の変化を捉え、作品の主題を考察する。</li> <li>・学習の振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の結末が読者に委ねられることの効果を説明する。</li> <li>・生徒の自由な発想を期待するとともに、本文から根拠を提示するように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イ（ワークシートの記述内容）</li> <li>・ウ（ワークシート、振り返りシートの記述内容・行動の観察）</li> </ul>
-----	---	--	--

※アイウの評価規準は考査によっても評価する。

## 7 指導に当たって

- ・指導方法の工夫：本文中の難解な語句は平易な言葉に言い換えることで、生徒の抵抗感を低減させるよう努める。各活動を短く区切ることで、集中力を持続させる。ワークシートを毎時間回収し、生徒の取り組み状況と理解度を確認する。
- ・授業形態の工夫：全体への講義を中心とする。単元の最後には、Teams の課題提出機能を用いて振り返りを行う。状況に応じて、適宜ペアワークやグループワークを取り入れる。

## 8 本 時（全7時間中の第3時間目）

### （1）本時の目標

- ・「暇を出される」という表現についての説明を行い、下人が途方に暮れている理由を明らかにする。
- ・「この衰微の余波」という表現に着目して舞台設定をよりの確に読み取る。

### （2）本時の展開

	学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	学習活動に即した具体的な評価規準（評価方法）
導入 （3分）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始業の挨拶をする。</li> <li>・前時の振り返りと本時の目標の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶、出欠の確認をする。</li> <li>・机の上に学習に関係ないものを出さないように指導する。</li> </ul>	
展開 ① （20分）	<p>○指名された生徒は第一場面（54頁～59頁4行目）を順に音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた理由を本文中から抜き出す。</li> <li>・「雨やみを待っていた」を訂正した表現を本文中から探す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて音読の手助けを行う。</li> <li>・「暇を出す」という語句について説明し、「行き所がなくて、途方に暮れていた」ことに結びつける。</li> <li>・「雨やみを待っていた」から「途方に暮れていた」へと訂正したことの効果を説明する。</li> <li>・生徒の理解度に合わせて、適宜説明を追加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ア（ワークシートの記述内容・行動の観察）</li> </ul>
展開 ② （24分）	<p>○57頁4行目「この衰微の余波」という表現について考える。</p> <p>○57頁10行目「どうにもならないことを、どうにかしようとして</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「衰微」の語義を考えさせるにあたって字訓に着目させる。</li> <li>・「余波」の語義を丁寧に説明する。</li> <li>・長期間雇われていた下人は、主人から信頼を得ていたが、天災によって人々の生活がままならなくなり、その影響で解雇されたという説明に重点を置く。</li> <li>・「どうにもならないこと」を具体的な言葉に言い換えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イ（ワークシートの記述内容・行動の観察）</li> </ul>

	<p>」という表現について考える。</p> <p>○羅生門の下にいた下人がはしごに足をかけ、作品世界の中心が移り変わることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手段を「選ぶ」、「選ばない」という二つの選択肢を具体的な表現に言い換えさせる。</li> <li>・下人の心情表現に着目させ、手段を選んでいることはできないと認めつつも、その先へ進めない下人の迷いを理解させる。</li> <li>・下人が、盗みを犯すことを一旦諦め、死人がいる羅生門の上へと自ら進んでいくことを理解させる。</li> </ul>	
まとめ (2分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容を振り返る。</li> <li>・終業の挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の内容について振り返りを行い、第二場面への予告を行う。</li> <li>・ワークシートを回収する。</li> </ul>	

### (3) 板書計画

ワークシート参照

### (4) 授業観察の視点

- ・授業者の発問は生徒にとって簡潔で理解しやすいものであったか。
- ・生徒の発言を言い換えたりまとめたりしながら授業を進行できていたか。
- ・時間配分は適切であったか。